



聖書本文: マタイの福音書25章1節—13節/暗唱聖句: マルコの福音書13章33節

クリスチャンプレイズチャーチ 鄭南哲 牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！一週間も主の平安を保ち、その中で過ごせましたか。また残っている休日の間出かける方々は楽しい時間となりますように。そして行き帰りお気をつけてください。

今日はマタイの福音書25章の御言葉の内容です。

みなさんのご存知のように、マタイの24-25章は終末の章つまり、終末にたいするたとえ話が記されています。

マタイの福音書24章3節を読んで見ますと、ある日、弟子たちがイエス様に尋ねて来て(24:1)、イエスさまの再臨と世の終わりに起こる前兆(ぜんちょう)などについて問いました。

イエスキリストは終わりの時と神様の国についてお話された後その日とその時間はいつになるかだれも分からないので目をさましていなさいと言われながら、やがて起ころうとする時に備えられることの大切さを悟らせるためにユダヤ人の結婚の風習(ふうしゅう)をたとえとして言われました。今日の本文の10人の娘の比喻のお話です。

### < イエス様の時代イスラエルの結婚式 >

いつかみなさんに御紹介したように今日のたとえ話をもっと分かりやすく理解するためにはイスラエルのユダヤ人の婚礼を知る必要があります。イエス様の時代のイスラエルの結婚式は大体水曜日の夜始まりました。式の場所は花嫁のお父さんの家で行われます。結婚式のその前と後からすぐ大体1週間ぐらいずっとお祝いのパーティを行います。それほど、結婚式は生涯の最大な宴会です。そして、婚礼の日の夜花嫁とその友達の花婿が来るまで外で待遠しく(まちどお)待ちます。特に花嫁の付き添い人たちはお祝いしながら花婿を花嫁の先に迎えてくれます。花婿が来たら、その時、彼女らはオリーブ油がはいったともしびをもって花婿を出迎えます。花婿が来る前までは婚礼はもちろん、祝宴(しゅくえん)は始まりません。そして、花婿が着いたら、必ず宴会の家の戸は閉められます。

夜行われる婚礼と宴会だったため強盗に襲われる可能性があったためでした。新郎新婦は誓約(せいやく)の式をあげ、一週間の間は王様王妃様のような扱いをされます。常時ローマの植民国だったイスラエルの人たちは奴隷扱いをされていたので、結婚式というのは生涯の一番大きなお祝いでした。まるで御国のような時間だったと思います。

今日の御言葉によりますと10人の娘たちが花婿を迎えるために外でまっていたと書かれています。

ここで花婿を待っていた娘たちは花嫁の付き添い10人でした。ところが、花婿はつくのが遅れます。よく聖書の本文を読んで見ますと最初は10人の娘たちともしびにはみんな油がありました。しかし、花婿がなぜか自分たちの考えより遅れていた時おろかな5人の娘たちは余分の油をそなえなかったんです。十分に準備する時間はあったんですが、寝てしまって愚かな娘たちは花婿がもう着いたごろに油を買いに行きましたが、その間花婿は来て、油の用意のできていた娘たちと宴会に入り、門は閉められてしまいました。後でいくら油を持って来て戸をあけて下さるように懇願(こんがん)しても断(ことわ)られてしまいました。

ここでともしびは信仰のかたち(おもて)で、油は信仰の内容で理解するば一番ふさわしいと思っておりますが、

油、つまり、信仰の内容はイエスキリストの命、信仰あるいは、聖霊による悔い改めと救い、聖霊の満たしたとも言えるでしょう。花婿はイエスキリスト(神様)、娘たちは主に従っている人々を意味しています。

### < 本文の御言葉による悟り >

今日の御言葉を通して簡単にする分かるのがいくつかあります。何でしょうか。

9節によると、賢い娘たちから油を借りることが一切できませんでした。つまり、**自分の信仰を他の人にあげるのも、もらうのもできないということです。**ローマ人への手紙1:17のように自分の信仰によって救われます。もちろん、他の人の信仰のため祈るのはできますが、他の人の信仰によってとか、自分の信仰によって他の人を救うことができないということをまず覚えて下さい。

6節によると、花婿である主イエスキリストをいつ来るか、迎えられるかわからなかったということが分かります。つまり、予告(よこ)なしにいつでも我々が主を迎えるようになるということなのです。主を出会える日、我々の人生の最後の日がいづになるかわか

らない、だから13節に寝ないで目を覚ましていなければ深刻な問題が起こることに警告して下さっています。

本文10-12節によりますと、遅れてしまって失った機会は再び決して来ないということです。後で愚かな娘たちも油を持って来ましたが、婚礼に入る事が決まらなかった。もう戻れることができませんでした。もう遅かったのです。後では機会がないと！遅くなるまで与えられた悔い改める、主に戻れる機会を見逃してはいけないという意味なのです。

第二コリント人への手紙6:2で使徒パウロはこう述べました。“神はいわれます。「わたしは、恵みの時にあなたに答え、救いの日にあなたを助けた。」確かに、今は恵みのとき、今は救いの日です。”神様が下さった今の時間を大切にしています。

今日のこの御言葉の要点は“あなたは今主と迎え、出会える予備しているのか、準備できているのか”です。もっと考えられるのは必要な油は今のうちにだけ用意できるということなのです。

人生の賢い者は自分の立てた計画ではなく神様のご計画に焦点を合わせます。みなさん、賢い娘たちとおろかな娘たちの共通点があります。それは花婿(はなむこ)がいつくるかわからないということなのです。もし私たちが待つ側になっているならば、このように不満なことばがすぐ出そうではありませんか。`

“到着の時間さえ教えてください、いいのに。。。どうしてこんなにおそいの。いつまで待つべきなのよ。私たちがぐわ立てた通りに従ってあげればいいのに。今ごろ今頃来たら、一番適期(てつき)なのに。遅すぎるからもしかして来ないんじゃないかな。とりあえずしばらくは絶対来ないはずだね。適当に自分勝手にしろ！”

このように我々は信仰の生活においても私たちは自分に立ち回りながら、自分のあたまと計算に頼ってすべてをくみとろうとする時がしばしばあると思います。そして神様にはただ決裁(けっさい)の印鑑だけを要求します。まるで自分の行動や考えは言うまでもなくいつも神様の御心にかなったように確信しながら振舞うのです。

神様の方法は私たちが自分たちの計画を神様に提出して神様の祝福を得て頂く事ではありません。それでは神様が今日のこの御言葉を通して神様は私たちに教えて下さっているのは何でしょうか。

それは人生に対する神様の絶対主権を心から認めること、そして自分の考えと違っても本気で従える従順の信仰ではないでしょうか。

遅れて来る事もその方の次第ですから、主の御心通りに油の用意をしなかったので主のパーティに入らないように命じられることも神様の主権なのです。神様は私たちにこう言われるかも知れません。“私はあなた方が決めた通りにしない、私はあなたが決めた時間ではなく、私が決めた時間に行く！もしかするとあなたが寝ている間夜中になるかもしれない。しかしあなた方は目を覚まして待ち備えをしなければならぬ！”私は 私が良しとされたときに現そう。だから、いつ現されても、私の前に立つことになっても恥ずかしくないように真心を持って待っていなさい。”

神様は今も結婚式自体より結婚するにふさわしい愛と花婿をむかえられる資格をもっているかどうかにもっと大切にされるからです。不思議なことにある人には主を迎える時がとっても早すぎると思われる人もいるかも知れません。油の準備が出来なかった娘たちにとっては新郎が来るのに早すぎるときと思うでしょう。しかし、ある人には神様は私たちに忍耐を求めます。ある時にはなされると約束されたにもかかわらず長引(ながび)いてしまうような時もあると思います。いつも油を備え新郎が来ることを待ち望んでいた娘たちにはいつ来られるかなとまるで時間が長引いているように感じたかも知れません。

しかし、公平の神様はだれも油を備えられる十分な時間を与えて下さいました。賢い娘たちとおろかな娘たちにも今日の御言葉の内容をよく読んで黙想して見ますと、神様はどちらにも同じく十分な時間を与えて下さったことが分かります。

問題は花婿を意味してイエスキリストではなく、甘く考えてまだ後でも大丈夫だと油断していた愚かな娘たちの問題であったことがわかります。

このたとえ話を何度も読み続け、黙想しながら悟られたことがあります。

それは私たちが祝福される秘訣は自分の立てた計画の事と自分の決めた時ではなく、いつも神様の定められた時に合わせて、神様のやり方に徹底的にしたがって行うことであることでした。今日このたとえ話で花婿がどうして遅れるのかは知られてありません。今日のこのたとえ話を通して神様は私たちにいつも余分の油を用意して置くように教えて下さいます。賢い娘たちも、愚かな娘たちも花婿がいつ来るのか、そのときを全然知りませんでした。

彼女らの知恵は花婿がいつ来るか来る時を知ることはありませんでした。世間の人たちと異端の新興宗教たちの中では多くこの世の終わりの時は具体的にいつなのかのみに関心を見せます。しかし、キリスト教の真の終末論的信仰というのは終わりの時はいつなのか分からないのでそれではなく今日！今！の与えられた時間を神様の御前でどのように生きているのかにフォーカスをあわせることはありませんか。

かしこい娘たちの知恵はいつ花婿が着ても問題なく迎えるように用意しておくことでした。それを一言で言いかえりますと、今日！今が神様の御前に立つ前に下された最後の日のように悔い改めて生きること！今日、今が神様が下されたイエスキリストを迎えるための準備できる最後の時間のように、立ち返り、信仰によってふさわしく生きること！ではないでしょうか。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！もし今日一日が神様が下された最後の日であるんだしたら、みなさんは何をしたのですか。もしではなく、本当に今日がみなさんに神様が下された最後の日であるんだしたら、みなさんはどうしますか。

ただ最後の日じゃないです。忘れないで下さい。神様が下された最後の時間です。聖書によると、もう地獄が決まっている信仰がない人々はほとんど死んですべてが終わりだと考え込んでしまい、人生の最後の前まで自分がやりたかったことに少しも悔いが残らないように自由にやってしまいがちです。それが快樂の道であっても、罪の道であっても、他の人に傷をつけても、何も気にせずに人生が終わると何もないから堂々にやってしまいます。なぜでしょうか。主を迎えるのに神様が私たちのため下された最後の準備の時であることに興味もないし、信じてないからです。

しかし、人が信じても信じなくてもそれに神様の計画と審判は少しも変わりありません。

愛するみなさん！しかし、信仰ある我々が違うべきでしょう。主を迎えるのに今日！今の時間を誠実に、忠実に、惜しみなく意味ない自分のプライドを捨てて、人の目に気にしないで人はある時にはだますことが出来るかもしれないけど、神様は我々のすべての御存知であることを信じて、その神様の御前で何も隠すことなく、すべてを告白し現して、真剣に悔い改めることによりすべての罪が赦され、自分の救いが確かにするべきでしょう。

今日が神様がくださった最後のじかんだしたら、今までのすべての人と関係を振り返り、自分が傷つけた人に行ってその前でひざまずき心から赦しを求められるでしょう。自分に傷つけた人も抱いてあげながら心から赦してあげられるでしょう。すべての人と和解させることができるでしょう。真に終末論的な信仰を持っているクリスチャンたちは今日与えられた一日を背一杯頑張っていくと信じます。ただ我々が今日一日！今の時間が神様が自分のために下された最後の機会であるように心から信じれば信じるほどそれが可能になると信じます。

もう今日がこの地上での私たちの人生が終わりなり、主を迎えることになるんだしたら、主にすべてをゆだねられないことがあるんでしょうか。主の御前で赦せない人がいるんでしょうか。真剣に悔い改めることが出来ない罪があるんでしょうか。愛せない人がいるんでしょうか。和解させてあげないことがあるんでしょうか。

愛するみなさん！我々に主が下された希望があります。今も遅いではありません。今日の一日は神様が我々を救おうとするため、回復させようとするため、主に戻れるようとするため下されている最高の機会であり、十分な時間であることを忘れないで下さい。ですから、主の御前で今日一日を、日々日々を感謝しながら大切にしていけるべきではないでしょうか。

神様は今までどんな人にもいつ来られるとあらかじめ知らせて下さらなかったわけがここにあるのです。もし花婿が来ることをすでに知っているならば花婿が来る直前に油を用意しておいてもいいでしょう。しかし、そうなると油なしに生きていられる信仰的空白(くうはく)、すきまが出来てしまいます。そして、そこにちょうど待ってたサタンは罪がそこにしみれるようにさせます。

罪を楽しく遊べるように、隠した罪の味にだんだん慣れて、最後に何も恐れなく、神様すら恐れなく大胆に罪を犯してしまい今まで主の御前で大事に守って来たことを全部失い、人生の家が倒れてしまうようにさせます。そして、ついに、罪に沈んでしまい、結局自ら神様の救いと愛を断り、離れてしまうようにさせるこんな恐ろしい結果にならないため神様はいつについて沈黙して下されているのです。そういうわけでいつも目を覚まして油つまり、聖霊に導かれ、聖霊に満たされた信仰の生活を送ることができるのです。これがまさに正しい週末信仰だと言えます。

今日の本文の13節では、“だから、目を覚ましていなさい。あなた方はその日、その時をしらないからです。”

とイエスキリストはおっしゃってくださいました。神様がその日、その時を私たちに秘(ひ)めて知らないようにされた理由がいつも目をさましているためでした。

反面、今日、本当に残念なのは、多くの人々は自分の信仰のための油を用意する時間が十分であると勘違いもしています。そのような考え方をもって信仰の表の形を意味するとしびだけはよく身につけましたが、内側の油の準備はあとにしてしまわないように気をつけましょう。

クリスチャンプレイズチャーチの兄弟、姉妹のみなさん！今日の御言葉は未信者にではなく、教会のクリスチャンたちへのメッセージであることを覚えて下さい。イエス様は今5人のクリスチャン娘たちと5人のノンクリスチャンの娘たちに言われてたのではありません。この10人のわかい娘たちは婚礼の宴会にてとても大切な役割をもった人たちでした。今日のこのたとえ話は信者にたいするメッセージなのです。

すべての信徒たちは信仰の生活の始まりに油を頂きます。イエス様を信じ始めたごろの主の愛と救いの恵みに満ち溢れその感激と喜びの中で豊かに満たされた信仰の生活をしてたと思います。しかし、今みなさんの中でいつの時からそのあかあかとともせられた信仰の火の油が少ない状況であるか、もう消された時が大部前から進んで来ている方はいませんか。(黙示録2章4-5節を読んで見ましょう。)イエスキリストは我々にこうおっしゃると思います。“クリスチャンになることだけで充分ではなく、日々聖霊に満たされなければなりませんよ。”と。自分は今余分の油を充分にもっているのでしょうか。すぐ消されそうな直前ですか。

自分自身をよく探って見てもう一度聖霊による回復を求めたいと思います。

**最近の自分の信仰の生活を振り返って見ましょう。**信仰を持ち始めたごろの主に対する懇切さと熱さは今も保っていますか。私たちの心の奥底からする暗闇をおい出してひややかな我々の胸に信仰の火をつけましょう。聖霊の油でもう一度満たされ、消えた信仰の火を聖霊によってつけ、信仰のとしびが明(あか)しくされるようにともに用意しましょう。

もし今かたちだけに残っている私たちの信仰のとしびの中にいるのなら、主の油なるイエスキリストをぎっしりいれ、今日からともに恵み充滿な信仰の生活にもどられますように切にお祈り申し上げます。

油を頂ける時があります。今がその時です。今日が満たされる時です。この時は我々が選択するものではありません。後の機会をまた神様が下さるか、どうかわかりません。今がチャンスです。今こそ回復される時間です。今日が主に戻れる最後の恵みの機会のように真剣に受け止められるように切にお祈り申し上げます。

-賢い娘たちもちろん、油の余裕分までも準備して置きましたが、彼女らも愚かな娘とおなじように眠っていた時がありました(5節)。この御言葉で我々は慰められます。我々も時々失敗する時もあります。倒れる時もあり、忍耐できなくて過ちを犯してしまう時もあります。罪を犯す時もあります。しかし、愚かな娘とちがったところを今日しっかり覚えて起きましょう。

**賢い娘たちのように準備できる時にしっかり準備をしておきましょう。**

ですから、今日の一日を我々のため延ばして下さっておられる主の御前で我々の心が真心(まごころ)で神様に向かって今のありのままの自分の姿で何も隠せず、すべてをさらけ出して真剣に悔い改め、主に委ねる時今もみなさんの上に主の油を注いで下さると信じます。

“主よ。私がいつもあなたの油と恵みと栄光が注がれて来る入り口にいつも立ていられますように助けて下さい。”愛するみなさん一人一人が回復された恵みの人生にかえられ、将来の確かな救いと御国を所有するクリスチャンプレイズチャーチのみんなとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！